



発行日 2013年6月10日

発行 一般社団法人日本リスク研究学会

会長 甲斐倫明

事務局 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19 株式会社国際文献印刷社内  
日本リスク研究学会事務局 発行責任者・情報管理委員会 瀬尾佳美  
TEL : 03-5389-3013 FAX : 03-3368-2822  
mail: sra-japan@bunken.co.jp URL: <http://www.sra-japan.jp/cms/>

日本リスク研究学会は、日本におけるリスク研究と研究者相互の交流を図ることを目的として、1988年に米国に本部をもつ国際的なリスクについての学術団体であるSRA(The Society for Risk Analysis)のJapan sectionとして発足しました。現在では、米国、欧州、東南アジアの諸学会と緊密な連携をとりつつ独自の活動を展開しています。

## 1. From the president

### 日本リスク研究学会長 甲斐倫明

文部科学省の科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会に安全・安心科学技術及び社会連携委員会リスクコミュニケーションの推進方策に関する検討作業部会が設置されている。リスクコミュニケーションを真正面から取り上げ、国として事業を行っていかうという計画のようだ。その会合に本学会の取組み活動を紹介するように要請され、本学会から村山理事が5月21日の会議で報告した

([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu2/066/shiryo/1335381.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu2/066/shiryo/1335381.htm))。学術組織として本学会は、自然科学系から社会科学系までの幅の広い領域の研究者や実務家を抱え、リスクコミュニケーションに関して様々な取組みを行ってきた実績がある。現在、本学会が取組んでいる事業のひとつに「リスクマネージャ制度」がある。大阪大学と本学会との共同企画として開始したが、昨年からリスクマネージャ委員会が中心となって重点事業の一つとして取組んでいる。リスクマネージャは認定プログラム修了者あるいは書類審査による認定者からなる。学会はリスクマネージャとリスクマネージャ養成プログラムの両方の認定を実施している。これまでの認定者は約100名であるが、そのほとんどが環境分野である。リスクマネージャに必要とされる資質とは、リスク評価プロセス理解力、リスク対話力、リスクマネジメント力および分野横断的リスク理解力となっており、学際領域のリスク学を研究する学会員にもリスクマネージャの称号獲得を目指すに相応しいコンセプトとなっている。学会員のモチベーションが高めてもらえるような仕組みを現在検討している。これによって、本学会が「リスク学」をさらに推進していくための社会的なメッセージとなることを期待している。一方で、現在進めている取組みとして、タスクグループ(TG)による活動である。リスクコミュニケーションTG、リスク教育プログラムTG、レギュラとリーサイエンスTG、リスク用語TGの4つのTGを設置し、今年度から活動を進める予定である。いずれも若手の会員から要望されたテーマであり、本学会からの社会的な成果につながっていくことを期待している。

「リスク学」を明確に学術的な活動として他分野から認知してもらうためには、基礎になる理論的な枠組と学術用語の定義は不可欠である。従来、「リスク学事典」と「リスク学用語小辞典」の作成を学会の取組みとして行ってきた経緯がある。一定の評価を得ているが、「リスク学」に到達するには、本学会のこれからの活動を会員の皆様と共に前進させることが必要と考えている。文科省が進めるリスクコミュニケーションが本来の意味で社会に浸透していくためには、本学会の役割が大きいと信じている。

## 2. シンポジウムにご参加ください！

---

産業技術総合研究所 岸本充生

6月14日には第26回シンポジウム「食品安全のためのリスク分析のこれまでとこれから」を東京大学山上会館で開催します。福島第一原発事故以来、食品安全をテーマとしたイベントは多数開催されていますが、本シンポジウムは食品の安全を確保するための手続きの側面、すなわちリスク評価とリスク管理からなるリスク解析に焦点を当てていることが特徴です。何か問題が起きるたびにケースバイケースで対処するのではなく、新規・新興リスクに対して早期に合理的に対応するためには、ルールや仕組みについて平時からきちんと議論を重ねておく必要があります。BSE問題を機に、食品安全委員会が発足し、日本で初めてのリスク評価専門機関として今年で10周年を迎えます。10年も経つと当然、様々な課題が浮かび上がり、リスクの専門家による評価が必要になります。食品安全分野における経験は、いままさにリスク分析が必要とされている他の多くの分野に重要な示唆を与えることでしょう。多数の参加と熱い議論を期待しています。

---

## 3. 委員会報告

---

### 3.1 事業委員からの報告

事業委員長 岸本充生

滋賀大学で開催された第25回年次大会の初日に行われた若手によるワークショップでの盛り上がりを受けて、学会内に、タスクグループ(TG)を複数発足させることが決まりました。春に2回に分けて募集した結果、リスクコミュニケーションTG、リスク教育TG、レギュラトリーサイエンスTG、リスク用語TGの4つを発足させることに決まりました。内容や運営方法についてはこれから試行錯誤でやっていくことになります。様々な分野の専門家が参加している本学会ならではのアプローチを模索したいと思っています。研究者ネットワークの拡大から、研究予算獲得や書籍の執筆まで、様々な形のアウトプットにつながれば良いと思います。今年11月の第26回年次大会におきましてもミーティングの場を設けたいと思いますので、積極的な参加、あるいは新たなTGの提案などを期待しています。

---

### 3.2 編集委員会報告

東京都市大学 広田すみれ

第13期の編集委員会は8月に発足、前編集委員会から5名が交代、2名を新たに追加し、現在13名体制

---

---

で運営している。昨年8月末および11月の学会大会時には編集委員会を行い、前者では編集作業の引き継ぎ、11月には今後の編集企画について議論を行った。発刊状況は、現在昨年度の大会シンポジウムおよび企画セッションの論文を掲載した24-1号が6月中旬に発行予定である。

通常の学会誌編集作業以外の問題として、投稿システムの引越しの問題が現在持ち上がっている。現在阪大生協の投稿システムを利用しているが、阪大生協側で阪大関連以外での利用を制限する動きがあり、今年度中に他のシステムへの移動を求められている。このため、春から現在まで複数の投稿システムについて見積もりを取るなどの検討をしたが、有償のシステムがかなり高額であることが判明したため、現在無料で利用できるシステムを検討中である。システムの移動については現在査読中の論文の移動が含まれることから、できれば秋には移動先を決定し、徐々に移行を進めていきたいと考えている。

なお、最後に。改めて申すまでもなく、多くの会員の方のご投稿をお待ちしております。

---

### 3.3 リスクマネージャ委員会からのお願い

神田玲子

東日本大震災そして東電福島原発事故を受けて、リスクに関する社会の関心が高まっております。そうした中、実践の場でリスクを扱う「リスクマネージャ」の存在はこれまで以上に重要なものとなりますが、現在、当学会の認定を受けているリスクマネージャは99名で、そのほとんどの方が環境分野の方々です。今後、理事会といたしましては、この認定制度を活用し、多分野のリスク人材の育成を推進したいと考えております。

前回のニュースレターでもお知らせしました通り、委員会では、リスクマネージャ養成プログラム認定の「審査の手引き」を改正しております。審査基準は変更せず、申請手続きを簡略化することで、リスクマネージャ養成プログラム認定制度に応募して頂きやすくなります。リスク関連の教育プログラムに携わっていらっしゃる会員の方や検討されている方は、学会のプログラム認定についてご検討くださいますようお願いいたします。またご興味・ご関心のある会員の方からのご連絡をお待ちしています。

またリスクマネージャ養成プログラム修了者でなくても、書類審査により、リスクマネージャ認定を受けることができます。

1. 日本リスク研究学会に5年以上在籍し、リスクに関する業務に5年以上従事した経験を持つ者のうち、リスクマネージャ委員会が認める方
2. 大学において、リスクに関する科目を担当する教授、准教授または常勤の講師である者、またはかつてあった者のうち、リスクマネージャ委員会が認める方
3. その他リスクマネージャ委員会が、上記相当と認める方

が対象です。

会員の皆様も、一度、学会 HP のリスクマネージャ登録に関する情報\*ご覧いただき、リスクマネージャ認定・登録について、お考え頂けないでしょうか。

よろしくお願いいたします。

\*リスクマネージャ登録に関しては [http://www.sra-japan.jp/riskmanager/cpd\\_register.html](http://www.sra-japan.jp/riskmanager/cpd_register.html) をご覧ください。リスクマネ

---

ジャの書類審査申請に必要な書類は、[http://www.sra-japan.jp/riskmanager/cpd\\_document.html](http://www.sra-japan.jp/riskmanager/cpd_document.html) の資料 3-1、3-2、3-3 です。

その他、ご不明の点は何なりと riskmanager[@]sra-japan.jp まで、お問い合わせください。

---

#### 4. 編集後記

---

今年は空梅雨なのか、入梅後あまり雨がふっていません。農業関係者からは心配の声がでているようです。豪雨も空梅雨も、いずれもリスクがともなうようです。

青山学院大学 瀬尾佳美

---